

山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行
山形県保険医協会
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839
購読料 年共1ヵ月 500円
印刷 コロニー印刷
第550号

9月号 TOPICS

秋のPR号

今月号はまだ会員になられていない先生にもお送りしています

ドクターに最適な保障を提供します！ 9月、10月は共済制度申し込み期間です

期間中、富国生命・大樹生命・太陽生命の共済制度普及員が伺います

責任が大きいドクターのために

グループ 生命保険

おすすめポイント

1. ドクターだけの大型保障

県グループ保険 5,000万円 + 東北グループ保険 6,000万円 = 最高保障額 1億1,000万円

2. 生命保険は安さが一番！ぜひ比較してみてください

例 年齢41歳～45歳 男性
保険金額 1億1,000万円
(月額保険料 19,790円)

例 年齢51歳～55歳 女性
保険金額 5,000万円
(月額保険料 13,700円)

3. 1年に1度の決算で余った保険料を返金します

配当金還元率
(直近3年間平均)

県グループ保険
25%

東北グループ保険
27%

お手頃な掛金で安心の備えを

休業保障

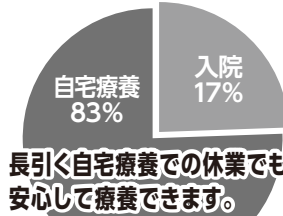
おすすめポイント

1. ドクター向けだから給付額が充実しています

加入時45歳 8口加入の場合 掛金は毎月 24,000円
30日分の給付を受けた場合
自宅療養 1,440,000円
入院療養 1,920,000円

2. 自宅での療養も給付対象です

通院日だけでなく、自宅療養期間が給付対象です。近年の入院日数の短期化を受け、給付における自宅療養の割合が8割を超えています。



長引く自宅療養での休業でも、安心して療養できます。

3. 代診をおいても給付されます

先生ご自身が休んでいれば給付されますので、医院を継続したまま療養に専念できます。

保険料は加入時から満期まで変わりません
(掛け金の安い、若年時での加入が有利です)

ゆとりある未来のために

保険医年金

おすすめポイント

1. 全国のドクター5万人が加入、積立金総額1兆3千億円を誇る日本最大の私的年金制度です

2. 年金保険なのに自在性があります

急な出費にも
1口単位で解約

都合に合わせて
掛金中断・再開

満期日の事前
指定不要

3. リスクを抑えた堅実な積み立てに最適です

予定利率1.225%を最低保証

2025年
9月1日現在

山形県保険医協会 第50回定期総会のご案内

日時：2025年11月15日(土) 15:30～20:20
会場：大手門パルズ(山形市)

第1部 総会議事 15:30～16:15
(活動方針、予算・決算)

第2部 市民公開講演会 16:30～18:15

大人力のみがき方

～自分も周りも元気になるために～

講師：昭和女子大学 ダイバーシティ機構 客員教授 心療内科医 海原 純子 氏



〇どなたでも参加できます。事前にお申し込みください
〇参加費は無料です

第3部 総会懇親会 18:30～20:20

※会員の皆様へは別途
総会のご案内を10月
上旬頃送付予定です

医療に視点を変えようと、政府は安い薬、ジェネリックをよしとしています。これこそが国力を落とす政策になっていきます。長い年月をかけて新薬を研究開発しても、早期にジェネリックに台頭されては、研究開発費を回収できず、新たな研究開発の機会を失うことになりかねません。ジェネリックは一見医療費削減や患者の負担軽減になりそうですが、長い目で見ると、新薬やワクチンの開発力を奪っているともいえます。国力は食料の備蓄と自給率、国民の安全と健康により維持されないと考えます。「安ければよい」「他から安く買えばよい」という考えを改めるべきです。(G)

この夏の渇水は農作物に大きな影響を与えてしまっています。令和の米騒動解決に向けて政府は、米の増産にかじを切るようですが、長年の減反政策で畑に転換した田んぼも多く簡単にはいかないうです。農作物が足りなければ外国から安く輸入すればよいという考えもありますが、食料や物資を安く買っているつもりが徐々に自国の生産力が減っていく、気がついた時には田畑と工場が消失、他国の言いなりにならざるを得ない状況に陥るという懸念があります。「安ければよい」という安易な考えは他国の政策に利用され、自立できない国家になってしまう。医療に視点を変えようと、政府は安い薬、ジェネリックをよしとしています。これこそが国力を落とす政策になっていきます。長い年月をかけて新薬を研究開発しても、早期にジェネリックに台頭されては、研究開発費を回収できず、新たな研究開発の機会を失うことになりかねません。ジェネリックは一見医療費削減や患者の負担軽減になりそうですが、長い目で見ると、新薬やワクチンの開発力を奪っているともいえます。国力は食料の備蓄と自給率、国民の安全と健康により維持されないと考えます。「安ければよい」「他から安く買えばよい」という考えを改めるべきです。(G)